The 40th 第40回東京モーターショー2007
TOKYO MOTOR SHOW 2007 News vol.14
世界に、未来に、ニュースです。
Catch the News, Touch the Future.
平成19年11月7日

福祉車両

未来のクルマ社会に応える福祉車両

介護する人もされる人も、「誰もがもっと自由に」の夢を現実に――

① 日産＝車いすリフトアップ仕様の「キャラバン・チェアキャブM仕様」
② マツダ＝スロープ式車いす移動車の「AZ―WAGON i」
③ 三菱＝サイドムービング仕様の「デリカD5」
④ トヨタ＝車いす2脚仕様の「ヴォクシー」
⑤ ホンダ＝助手席回転シートの「FITアルマス」
⑥ 三菱ふそう＝電動昇降タイプの「新型エアロクイーン」（参考出品）
⑦ ダイハツ＝スロープ式の「アトレースローパー」
⑧ いすゞ＝2脚収納式の「エルガー ノン ステップ」（参考出品）
⑨ 富士重＝ウイングシートリフトタイプの「ステラトランスケア」
⑩ 日野＝小型周遊観光バス「日野ポンチョ・旅カフェ」（参考出品）
⑪ ダイハツ＝助手席シートリフトの「新型TANTO WELCOME SEAT」（参考出品）

わが国の福祉車両は1996年度に9,000台に満たなかった販売台数が、2006年度には約4万台へと大幅に増えた。この10年間平均での前年比伸び率は120%という高い推移。その主な要因は個人ユースでの購入拡大と見られている。今回の東京モーターショーでも車いす利用者特別見学日に限らず、一般公開日においても各ブースを熱心に見て回る、途切れのない車いす利用者の姿がその推移を物語っている。

2035年には高齢化率が33%を超え、じつに3人に1人が65歳以上という世界でも類の無い高齢社会が到来しようとしている。とともに、介護する人の高年齢化も進み、すでに現在、家庭などで日常的に介護に携わる人は、その過半数を60歳以上の方が占める「老老介護」の現実を迎えている。介護する人の負担軽減という側面からも、福祉車両の充実は欠かせない大きな課題となっている。

こうした背景を受けて国内自動車メーカー各社は、競って車いす仕様車の拡大と利便性、操作性および装備の高度化を図ってきている。今回のショーでもほとんどの乗用車メーカーに加え、大型車メーカー各社がバスのコンセプトカーにまで意欲的な車いす対応を見せており、全メーカー規模での車種拡大がいっそう進んでいる。

福祉車両は自操式と介護式の2つに大きく分けられ、介護式にはさらに、利用方法によって回転（スライド）シート、昇降シート、車いす移動車などの種類に分かれる。今回のモーターショーではより進化した各種の介護式車両が数多く出品されているのが特徴だ。紙面に限りがあるので、各社の代表的な福祉車両を一挙に写真公開してみた。

車体メーカー

荷台架装車や特装車の車体メーカーは、日本車体工業会加盟の9社が幕張メッセの北ホール、屋外展示場の2会場を使っての出展となった。屋外展示場には10月30日までの開催期間限定で7社が出品、巨大なダンプトレーラやハシゴ消防車、塵芥車などの多種多様な“働くクルマ”たちの操作実演が来場者の人気を集めた。一方、3社が出展した北ホール（※トヨタ車体は両会場出展）には、さまざまに“衣装替え”した小型商用車、乗用車やユニークなコンセプトモデルなどが顔をそろえて関心を呼んでいる。

日本自動車車体工業会ブース

会場2階の中央フロアにブースを構える車工会は、10年ぶりとなる総合ショーでの車体メーカー展示を盛り上げるために、両会場開催期間中に全社の展示を見て回った証明のスタンプを押してもらい提出すると、ミニチュアカーがもらえるという“スタンプラリー”企画をトミカの協力で催したが、これも大ヒット。当初予定していた500個では到底間に合わずに「子供優先の“限定ラリー”にしました」と、うれしい悲鳴を上げていた。

トヨタ車体　「うれしいクルマ、やさしい暮らし。」をテーマにコンセプトカーを4台出品

バンパーからルーフ、ピラーまですべて植物ボディの小型電気自動車「COMS BP」を世界初出品。ウォークスルーで立ったまま作業ができ、自宅訪問でペットのトリミングをケアする「MOBILE TRIMMER」、パワーリフトで簡単にバイクを出し入れできる「TRANS PIT」、旅する大人夫婦に向けた、室内4モード自在アレンジの「VOXY Bi-TREK」など4台のコンセプトカーを出品し、独自の技術力と楽しさを創造提供している。

世界初、オール植物ボディの「COMS BP」

人とペットに優しいサロンカー「MOBILE TRIMMER」

日産車体　LCV特装車の強みにフル・アクセル

キャンピングカーの「シビリアン・スーパーリゾートサルーン SR-Ⅱ」や新型「アトラスF24 リアゲートリフター付 トラック」など4台の市販LCV（ライトコマーシャル ビークル＝小型商用車）の特装車を出品。救急車や子どもたちに大人気のキャラクターバスなど特装車両の架装に強い企業カラーを打ち出している。試乗体験には常に長い行列が出来ていた。

◀「シビリアン・スーパーリゾートサルーン SR-Ⅱ」

▼リフトアップ仕様「キャラバン」

関東自動車工業　紅葉の彩色に示す技術の高さ

サックス、バイオリン、ギターによる1時間ごとのライブパフォーマンスのなか、世界初出品「ルミオンxO」の電動スライド大開口ルーフを開閉・実演。台上奥には至高のショーファーカー「プレミアムセンチュリー」（世界初出品）を真横に見せ、細部のディテールにこだわった「カローラフィールダーシンプレア」も参考出品している。

季節を意識して、ブースとxO、シンプレアの両車両に紅葉デザインを大胆に彩色。完成車メーカーのブースかと見まがう“あでやかさ”で来場者を沸かせている。見どころは、この企業の高い技術力でしかできない、紅葉の「塗色」だ。

エクストラオープン採用の「ルミオンxO」

TOPICS

ポッカPRブース

オリジナルラジコンを2万300名にプレゼント!

中央モールに開設された東京モーターショーのオフィシャルドリンクスポンサー、ポッカコーポレーションのブースでは、オリジナルラジコンの展示が人気だ。車種はトヨタのコンセプトカー「FT−HS」、日産「フェアレディZ」、ホンダ「シビックタイプR」など、人気の高いものばかりとあって、大勢の来場者が見物に訪れている。このラジコン、第40回東京モーターショー2007開催を記念して、2万300名にプレゼントされる。ポッカ缶コーヒーやアロマックスシリーズなど12種類の製品に貼られているシールを2ポイント集めて応募するだけでOKだ。

プレゼントへの応募をお待ちしています

オリジナルラジコンが勢ぞろい

会場限定・懐かしの名車入り缶コーヒー

ユーエヌティー(UNT)

「エコ」と「ファッション」の世界初ワイパー

“おしゃれなワイパー”に変えるカラーシート

幕張メッセ会場中央と西の両ホールを分ける通路に、小さな展示ブースがひとつ。「将来は世界のクルマの1%に装着させたい」と大きな夢を持つワイパーブレードメーカーのユーエヌティー(UNT)だ。展示する「エコワイパーmidORI(みどり)」は、使用部品数をこれまでのワイパーにくらべ4分の1近くに減らした文字通りの省資源型エコ商品。この車体に張る24色のカラーシールを開発し、合わせて今回ショーに初出品した。

ワイパーがクルマに装着されるようになって70年、初めてユーザーがファッショナブルに選択できる商品の誕生として話題を呼んでいる。

エコワイパー本体価格は30〜65センチまで11アイテムがあって、2,100円から3,200円、カラーシールは単色、柄物と多彩で450円(ともに消費税別)。

bayfm

東京モーターショーレポート

幕張メッセ西休憩ゾーンにあるライフスタイルパークのステージ上ではサウンドストリームとナイスなトーキングで人気が高い千葉のFMステーション、ベイエフエムの生中継を行っている。11月1日〜2日および5日〜9日、東京モーターショーの見どころのライブレポートを発信している。人気DJ、キャスターの渡名喜織恵さんが、沖縄っ子の明るさでモーターショーの魅力を引き立てる。レポート終了後に行われる来場者へのプレゼントジャンケン大会も楽しみだ。

モーターショー情報をリアルタイム発信

e-tixオンラインチケットシステム

自宅でチケットを即ゲットできる超便利システム

プリントアウトしたチケットで即入場

クレジットカードとパソコンのプリンターがあれば、世界中どこにいてもモーターショーの入場券を即ゲット—「e-tixオンラインチケットシステム」が、第40回東京モーターショー2007の前売りから導入された。オフィシャルウェブサイト(http://www.tokyo-motorshow.com/)にアクセスし、画面の指示に従うだけでOK。手数料はもちろん無料だ。すでに入場者の5%近くがe-tixを使っているという。この超便利システム、一度使ってみる価値がある。

献血・骨髄バンクコーナー

今日もどこかであなたの「善意」を待っている

北ホール南側にある救護所と隣接して「献血・骨髄バンクコーナー」を開設中。献血は日本赤十字社が、また骨髄バンクは千葉県骨髄バンク推進協会が献血協力者を対象にドナー登録を実施している。6日までに1,821人の来場者に献血のご協力をいただいているが、日本赤十字社では「ここ数日、とくにAB型が不足気味で、該当者は是非ご協力を」と、呼びかけている。

一方の骨髄バンクコーナーでは、すでに474人がドナー登録しており、献血、ドナー登録ともに前回(39回最終実績=献血者2,836人、ドナー登録者887人)並みのペースだという。ひとりでも多くの患者の命が救われるよう、今日もどこかであなたの「善意」を待っている。

TOPICS

トミカ・チョロQコーナー

モーターショーオリジナルトミカ、チョロQが大集合

2001年の第35回ショーで初めて開設されて以来、幼児からミニカーファンの大人まで幅広い層から人気を博してきた「トミカコーナー」。今モーターショーでは「トミカ・チョロQコーナー」と名称を変え、ミニカーに加えチョロQの品ぞろえも一層の充実が図られた。名物のモーターショー開催記念トミカはトヨタ「エスティマ」、日産「スカイライン」、マツダ「MPV」など13車種が販売されている。

今回はさらに、赤外線リモコンを装備した超小型ラジコン「第40回東京モーターショー2007開催記念Qステア」も販売。車種は日産「スカイラインGT-R（R34）」、三菱「ランサーエボリューションⅧ」、トヨタ「スプリンタートレノ（AE86）」など8車種。トミカコーナーではこのQステアを実際に操縦体験できるコーナーも設置されており、子どもたちが初めて触るラジコンに歓声を上げる光景が日々見られる。

ほか、オリジナルチョロQを組み立ててバトルを楽しむチョロQデッキシステムの体験コーナーなども。トミカ、チョロQを体感したいと思ったら、すぐさま北ホール2階、キッズパーク内のトミカ・チョロQコーナーへGO!!

VISITORS INTERVIEW

来場者に聞く

吉田 怜史さん
（20歳、大学生）

トヨタブースが断然充実、でも欲しいのは「GT-R」かな？

茨城県守谷市に住む吉田怜史さんは千葉県下の理科系の大学2年生。「大学に入学してすぐに運転免許を取得した」というほどの大のクルマ好き。これまでも東京モーターショーには、「父親に連れられてよく見に来た」そうだが、今回は気の合う大学の仲間数人とともに開門と同時に入場し「ほとんどのブースを隅々まで見て回ったら、すっかり暮れてしまった」という。そんな吉田さんに、印象をズバリ聞くと「やはりトヨタが断然充実していて、クラウン・ハイブリッドやハイブリッドタイプのスポーツカーは興味深く、トヨタが環境に力を入れていることがよくわかった」との感想。

もっとも、展示車両の中でいちばん欲しいと思ったのは日産の「GT-R」。「評判どおりいいクルマ」と絶賛。また、「外車をもっと見たかったが、外車の展示が少ないのは残念。普段あまり見られない外車の展示が充実してこそモーターショー」と、率直な意見も語ってくれた。

EVENT

今日のイベント（予定）

11月7日（水）

<ライフスタイルパーク（西休憩ゾーン）>

- **ダブルダッチ**
  10：45~11：15／15：45~16：15
- **bayfm78 東京モーターショーレポート**
  11：30~12：00／14：00~14：30
- **WHO「運動器の10年」キャンペーン トークショー**
  12：15~13：15
- **トライアルデモンストレーション**
  13：30~14：00／15：00~15：30

- **スロットカー・サーキット**（北ホール2階・キッズパーク）
  10：00~18：00
- **ミニシアター～クルマの夢・楽しさ・素晴らしさ～**
  10：40~12：25／13：05~17：35（国際会議場3階 302号室）
- **4×4 アドベンチャー同乗試乗会**
  11：00 ~ 16：00（幕張海浜公園Gブロック内 特設専用コース）
- **セーフティドライブ体験試乗会**
  11：00 ~ 16：00（幕張海浜公園Gブロック内 特設専用コース）
- **クリーンエネルギー車同乗試乗会**
  11：00 ~ 16：00（幕張海浜公園D・Eブロック内 特設専用コース）
- **商用車同乗試乗会**
  11：00 ~ 16：00（幕張メッセ周辺公道
  幕張メッセ南休憩ゾーン東側通路発着 東ホール東側）

※試乗券配布場所：幕張メッセ南休憩ゾーン西側　※天候等の都合により予定が変更になる場合があります。

KONICA MINOLTA
毎分65※枚フルカラー出力 ※A4ヨコ
印刷から加工までインラインで高速処理。多様なニーズに応えるハイパフォーマンス。
The essentials of imaging
フルカラー・オンデマンド高速印刷システム ON DEMAND PUBLISHER C65
このニュースは、コニカミノルタ ON DEMAND PUBLISHER C65で出力しています。
コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
プロダクションプリント事業部
TEL. 03-5205-7820
URL. http://konicaminolta.jp/pr/odp

The 40th TOKYO MOTOR SHOW 2007

11月6日の入場者数 64,100人　入場者数累計 986,500人

東京モーターショーニュースVol.14　2007年11月7日発行
発行所　社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012　東京都港区芝大門1丁目1番30号　日本自動車会館
TEL.03-5405-6119　FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com
JAMA